

公益社団法人となって

公益社団法人東京都山岳連盟

会長 佐藤 旺

平成25年度、東京都山岳連盟として皆様に一番に報告申し上げることは、一般社団法人から公益社団法人に移行したことです。

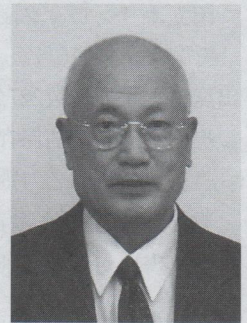
すでにこの3月、内閣府公益認定等委員会より公益社団法人移行への認証答申をいただき、4月1日に登記を完了させ、公益社団法人としてのスタートを切ることができました。これは、ひとえにこれまでの都岳連の様々な事業展開等にご尽力された代々の会長はじめ役員や先輩の皆様、ならびに正会員や加盟団体の皆様のおかげであります。

また、東京都や東京都体育協会、公益社団法人日本山岳協会などの関係団体の皆様には、いつも適切にご指導やご教示を頂きました。

皆様には、この場をお借りし心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

さて、公益社団法人に移行することで、社会的な信用度が高かまると同時に、私共が果たさなければならない責務も一層重くなります。こうしたことを先ずは一人ひとりの理事、監事、役員が自覚し、日々の都岳連の活動に

携わるつもりであります。これまで安全登山の普及のための登山教室や講習会、また、スポーツクライミング大会の開催など、登山に関わる様々な事業を展開してまいりました。今後は公益社団法人の名に恥じないよう一層それらの充実を図って参ります。



なお、この10月にはスポーツ祭東京2013が開催されます。私共は、山岳競技の主管団体として、一致団結し大会成功に向けて努力する所存です。現在、東久留米市、及び日山協との連携とご指導のもと、全国から集まるアスリートの皆様が最高のパフォーマンスを発揮できるよう準備を進めているところです。

最後になりますが、これまで以上の皆様のご指導とご鞭撻をお願い申し上げ、この度の公益社団法人移行へのご報告とさせていただきます。

スポーツ指導者制度について

指導委員長 瀧本 健



平成 25 年 10 月時点のスポーツ指導者の数は以下のようになっています。

	全競技	山 岳
指導員	104,309	1,244
上級指導員	14,784	1,379
コーチ（含上級）	20,080	151
教師（含上級）	5,379	0
合 計	144,552	2,774

全体で見るとコーチの数が上級指導員よりも多いのが分かります。内訳は種目により異なっており、陸上、水泳、体操などではコーチの数が上級指導員を上回っています。またサッカーの場合、上級指導員はゼロでコーチが5,403 名というケースも有ります。教師がいるのは、水泳、スキー、テニス、スケート、プロゴルフ、プロテニス、職業スキーのみです。

山岳のスポーツ指導者は以前は 6,000 人ほどでしたが、減少し続けて今では 3,000 人を切っています。

山岳の場合、多くの方は 20 年以上前、日山協公認指導員の時代に資格を取得し、1994 年頃文部省のスポーツ指導者資格に移行しましたが、その後資格を取得する方よりも、高齢化により資格

の継続を辞退する方の方が多い状態が続きました。

従来の山岳指導者はアルパインの安全登山のための指導者という色合いが濃かったわけですが、近年はスポーツクライミングが盛んになり、国体の山岳競技も、縦走・踏査はなくなり、スポーツクライミング（ボルダリングとリード競技）になっています。スポーツ指導者の資格も 2009 年にスポーツクライミングの指導員、上級指導員の資格が設けられました。

また 2013 年の東京国体からは、監督はスポーツ指導者の資格を保有していることが条件となり、指導者資格の重要性が高まってきています。

2020 年の東京オリンピックではスポーツクライミングも追加競技の候補に挙がるなど、スポーツ界の注目度も高くなってきています。このような背景で、2013 年にはスポーツクライミングのコーチの資格が新設され、将来オリンピックでメダルを獲得する選手を育成するための選手強化プログラムの作成に着手しています。

スポーツ指導者制度がアルパインとスポーツクライミングの 2 本立てになり、その育成、運用に当たっては複雑さ、困難度が増していますが、スポーツ指導者の資格の重要性はますます増してきています。今後は指導者育成のため、指導委員会と競技委員会との連携をより強化していきたいと思えます。